

新品種審査のための
作物別 特性調査要領

冬虫夏草
Vegetable Wasps and Plant Worms
(*Cordyceps* spp.)

この要領は種子産業法第26条及び同法施行規則28条に基づく種子管理要綱第2条の別表1に対する作物別品種の特性を説明するのに必要な事項と種子産業法施行規則第35条規則に基づく栽培審査のために必要な特性検定を実施する要領を定めている。

国立種子管理所

目 次

1. 目次	1
2. 品種特性表及び種子提出	1
3. 品種の特性検定	1
4. 特性別調査基準及び方法	3
<付表> 特性表説明	5
5. 品種特性表	7
6. 品種特性記述書	8

1. 目的

この特性証左要領の目的は種子産業法施行規則第35条規定に基づき栽培審査に必要な事項と種子管理要綱第2条別表1に基づく作物別品種の特性調査に必要な事項などを定めるものであり、冬虫夏草類(Cordyceps, Paecilomyces, Torrubiiellaを含む)すべての品種に適用する。

2. 品種特性表及び種子提出

あ. 品種特性表提出

出願者は出願時出願品種の特性を“4. 特性別調査基準及び方法”に基づき、調査を実施した後、“5. 品種特性表”と“6. 品種特性記述書”を作成し、出願書に添付して提出しなければならない。

い. 種子の提出

○ 出願人は種子管理要綱第4条の規定に従った種子試料を栽培試験実施期間の間、毎年提出しなければならない。

○ 提出される種子は栽培試験に適切な規格の健全な種子で、当該品種の固有な特性を備えていなければならない。特別な場合を除いて消毒薬剤処理をしてはならない。

○ 審査官は必要な場合、最少10株の植物体の標本提出を要求することができる。

3. 品種の特性調査

あ. 栽培試験の実施

○ 栽培試験は冬虫夏草【동충하초】の正常な生育が可能な条件下で実施されなければならない。

○ 特性調査のための栽培試験規模は試験区が6反復以上になるようにし、計60個体以上が栽植されなければならない。

い. 特性調査の実施

○ 特性調査は冬虫夏草【동충하초】の正常な生育が形成される状態で実施されなければならない。

○ 区別性及び安定性評価のための調査個体数は少なくとも20個体又は20個の個体の部位から調査されなければならない。

○ 栽培試験担当者は特性調査の実施に当たり“4. 特性別調査基準及び方法”に基づく調査を実施した後、“5. 品種特性表”を作成しなければならない。

う. 品種の分類

特性検定を実施するに当たり出願品種を調査対象形質の特性別に次のように分類できる。

(a) 子実体 : 頭の有無(形質3) : ない、ある

(b) 子実体 : 頭の形(形質4) : 球型、短い棒型、綿棒型、鉢型、披針型、小さい突起型、珊瑚型、長い楕円形、首を伏せた型、結晶型

(c) 子実体 : 頭の色(形質11) : 白色、黄色、橙色、赤色、褐色

(d) 子囊の有無(形質16) : ない、ある

え. 特性別調査基準及び方法に使用される記号

(*) : 品種の特性説明のために必ず調査が必要な特性であり、特性の調査方法及び地域性や気候などに因って調査が不可能である場合は除外する。

(+) : 絵や追加説明が添付されているので参考にすることができる。

MG : 調査対象の植物体又は植物体の一部を集団にして1回測定。

MS : 調査対象の植物体又は植物体の一部を対象にして個体別に測定。

VG : 調査対象の植物体又は植物体の一部を集団にして1回観察による肉眼測定。

VS : 調査対象の植物体又は植物体の一部を個体別に観察し肉眼測定。

QL : 質的形質

QN : 量的形質

PQ : 類似質的形質

4 特性別調査基準及び方法

番号	特性	調査時期	表現形態	階級	標準品種	調査基準及び方法
1 (* QN	菌糸: 生長速度		早い 中間 遅い	3 5 7		○ 一定の温度で菌糸の生長速度をチェック (mm/培養期間) MG
2 QL	菌糸: 色		白色 黄色 橙色 赤色 褐色	1 2 3 4 5		○ 培養地の裏面の色(背面)を観察 VG
3 (* QL	子実体: 頭の有無	収穫時	なし あり	1 9		○ 収穫時、子実体の頭の有無を観察 VG
4 (* (+) QL	子実体: 頭の形	収穫時	球型 短い棒型 綿棒型 鉢型 披針型 小さい突起型 珊瑚型 長い楕円形 首を伏せた型 結晶型	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		○ 収穫時、頭の形を観察 VG

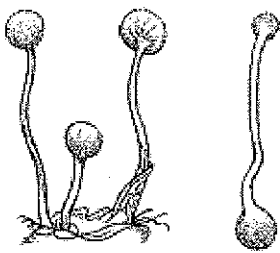
5 QN	子実体: 頭の長さ	収穫時	短い 中間 長い	3 5 7		○ 収穫時、頭の長さを調査 MS
6 QN	子実体: 頭の直径	収穫時	狭い 中間 広い	3 5 7		○ 収穫時、頭の直径を調査 MS
7 QN	子実体: 柄【자루】の長さ	収穫時	短い 中間 長い	3 5 7		○ 収穫時、柄【자루】の長さを調査 MS
8 QN	子実体: 柄【자루】の直径	収穫時	狭い 中間 広い	3 5 7		○ 収穫時、柄【자루】の直径を調査 MS
9 QN	子実体: 柄【자루】と頭の長さの比率	収穫時	小さい 中間 大きい	3 5 7		○ 収穫時、柄【자루】と頭の長さの比率を調査 MS
10 (+) QL	子実体 柄【자루】縦断面の形	収穫時	中が詰まっている型 空洞型 海綿型	1 2 3		○ 収穫時、柄【자루】の断面の形を観察 VS

番号	特性	調査時期	表現形態	階級	標準品種	調査基準及び方法
11 (*) QL	子実体: 頭の色	収穫時	白色 黄色 橙色 赤色 褐色	1 2 3 4 5		○ 収穫時、頭の表面の色を調査 VG
12 (*) QL	子実体: 柄【자루】の色	収穫時	白色 黄色 橙色 赤色 褐色	1 2 3 4 5		○ 収穫時、柄【자루】の表面の色を調査 VG
13 (*) QL	子嚢核: 有無	収穫時	なし あり	1 9		○ 収穫時、子嚢核の有無を調査 VG
14 (*) (+)	子嚢核: 形態	収穫時	埋没型 半埋没型 突出型	1 2 3		○ 収穫時、子嚢核の形態を調査 VG

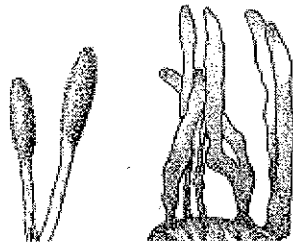
QL						
15 QN	子嚢核：密度	収穫時	まばらだ 中間 密集	3 5 7		○ 収穫時、子嚢核の密度を調査 MG
16 QL	(*) 子嚢の有無	収穫時	なし あり	1 9		VG
17 QN	分生子柄束：発生頻度 (子嚢核のない品種の場合)	収穫時	低い 中間 高い	3 5 7		○ 収穫時、柄の発生頻度を調査(個数/単位面積) MG

<付表> 特性表の説明

形質 4. 子実体：頭の形



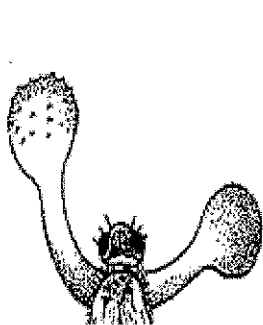
1
球型



2
短い棒型



3
綿棒型



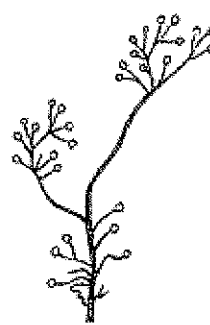
4
鉢型



5
披針型



6
小さい突起型



7
珊瑚型



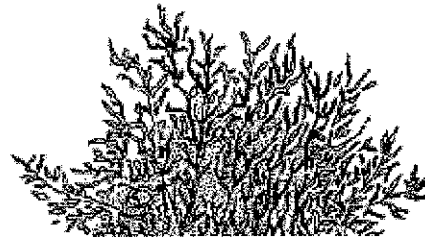
8

長い楕円型



9

首を伏せた型



10

結晶型

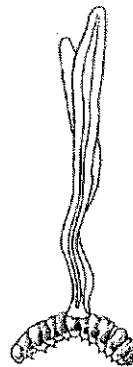
形質 10. 子実体: 柄の縦断面の形



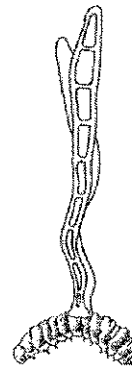
1. 中が詰まっている型
(固く中が詰まっているもの)



2. 空洞型 (관공형)
(中が空いているもの)



3. 海綿型
(中が網状になっているもの)



形質 14. 子嚢核 : 附着形態



1

埋没型



2

半埋没型



3

突出型



5. 品種特性表

- 植物の種類 :
- 出願品種の名称 :
- 出願人の姓名 :
- 特性調査者の姓名 :
- 特性調査の年度 :
- 特性調査の場所 :
- 対照品種(最も類似した品種)の名称:

No	特性	表現形態										出願品種		対照品種			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	No	実測値	No	実測値		
1	菌糸：生長速度			早い		中間		遅い									
2	子実体：色	白色	黄色	橙色	赤色	褐色											
3	子実体：頭の有無	なし								あり							
4	子実体：頭の形	球型	短い棒型	綿棒型	鉢型	披針型	小さい突起型	珊瑚型	長い楕円形	首を伏せた型	結晶型						
5	子実体：頭の長さ			短い		中間		長い									
6	子実体：頭の直径			狭い		中間		広い									
7	子実体：柄の長さ			短い		中間		長い									
8	子実体：柄の直径			狭い		中間		広い									
9	子実体：柄と頭の長さの比率			小さい		中間		大きい									
10	子実体：柄の縦断面の形	中が詰まっている型	空洞型	海綿型													
11	子実体：頭の色	白色	黄色	橙色	赤色	褐色											
12	子実体：柄の色	白色	黄色	橙色	赤色	褐色											
13	子実体：有無	なし								あり							
14	子実体：付着形態	埋没型	半埋没型	突出型													
15	子実体：密度			まばらだ		中間		密集									
16	子実体：有無	なし								あり							
17	分生子柄束：発生頻度 (了囊核が無い品種の場合)			低い		中間		高い									

6. 品種特性記述書

1. 作物名(学名): 冬虫夏草【동충하초】(<i>Cordyceps</i> spp.)
2. 品種名 :
3. 出願品種の植物体の主な形態的特性 - 10個程度の特性について質的特性を主にして記述し、量的特性は対照品種と比較して記述。
4. 出願品種が対照品種と区別される特性 - 出願品種が最も類似している品種と区別される特性を記述し、類似している品種がない場合、既存のほかの品種と区別される特性を記述。
5. 出願品種の均一性と安定性を記述(対照品種を含む)
6. 出願品種を区別するのに役立つ追加情報 6.1 耐病虫性 6.2 品種試験のための特別な条件 6.3 その他の情報
7. 品種育成に関する情報 7.1 上の品種は遺伝的変形技術を利用して育成された品種(GMO)ですか? はい(), いいえ() 7.2 遺伝的変形技術による品種(GMO)である場合、遺伝子変形生物体の国家間移動などに関する法律(制定 2001.3.28 法律第6448号、産業資源部)に従って分野別農林部長官が告示した“遺伝子変形農産物の環境危害性評価審査指針(農林部告示第2002-2号)”に従い安全性を評価し、その結果を添付しましたか? はい(), いいえ() 7.3 関連規定のために実験を実施した場合、安全性の結果を添付しましたか? はい(), いいえ() ※ 質問 7.3で「いいえ」に該当する場合、安定性の結果が提出される前には次の手続きが進められません。 あ. 品種の審査(品種保護出願品種の場合) い. 品種生産・輸入販売申告筆証の交付(品種生産・輸入販売申告品種の場合)

※ 次の資料は出来るだけ添付していただけますと、均一性と安定性についての審査時、参考資料として活用されます。

- 調査個体数及び異形株数、反復間の試験成績(均一性の根拠、1個地域)
- 年次間の試験成績(2年以上/1個地域、安定性の根拠)
- 統計処理 : ANOVA, t-検定または LSD-1%, 5%
- 育種者が追加で品種を説明するのに必要だと認めた特性や資料